

トピックス：2

全日本選手権 2016 綿貫陽介 高校生がチャンピオンに輝く



2016年 全日本選手権男子シングルスで綿貫陽介は、谷沢英彦以来の27年振り18歳で堂々とチャンピオンに輝いた。

第1シードの守屋、第5シードの竹内、そして決勝では第2シードの前年優勝者内山に快勝。

しかも5試合で一度もセットを落とさなかった。

決勝戦 ○綿貫陽介 6-2,6-4 ●内山靖崇

写真提供：テニスクラシック

楽天ジャパンオープン 2017 ダブルス優勝

マクラクラン勉／内山靖崇組がツアー大会初出場で初優勝

日本人ペアとして鈴木貴男／岩渕 聡以来12年ぶりのダブルス優勝

決勝で昨年の世界最強ペアである

ジェイミー・マリー（イギリス）／ブルーノ・ソアレス（ブラジル）

を破り頂点に駆け上がった。内山とマクラクランの初めの出会いは、

13歳のとき。「ワールドジュニア」という14歳以下の国別対抗戦に、

内山が日本代表、マクラクランがニュージーランド代表で

出た時である。18歳時には、ふたりはパートナーとして

全仏オープンジュニアのダブルスにも出場した。



内山靖崇 ダブルス世界ランキング急上昇 131位（△361位）シングルス：190位（△24位）

マクラクラン勉 ダブルス 80位（△51位）（2017, 10, 10 現在）

写真提供：テニスクラシック

全米オープン・ジュニア 2017 ダブルス準優勝



写真提供：テニスクラシック

“昨年、準決勝で敗れた雪辱を”と臨んだ今年のUSオープン・ジュニア。ジュニア最後のシーズンとなる今年も、ペアを変えず堀江 亨／清水悠太で大会に乗り込むと、2回戦で第2シードを、準々決勝で第3シードといずれもストレートで破って昨年果たせなかった決勝へ。安定感ある清水のストローク力と爆発力ある堀江という掛け合わせは、調和の取れた戦いぶりを見せた。頂点まであと一勝に迫った決勝の相手は第1シードY.シュー／Y.ウー

「緊張でカチカチだった」（堀江）、「初の決勝で

緊張して縮こまった」（清水）という状況で第1セットは奪われたが、第2セット、苦しい展開をものにしてスーパータイブレークへ。流れは来ていたものの、9-8のマッチポイントで堀江のフォアボレーが痛恨のミスに。惜しい準優勝となった。

堀江 亨（関スポーツ塾・T）／清水悠太（兵庫・西宮甲英学院） 4-6,7-5,9-11 Y.シュー（中国台北）／Y.ウー（中国）